

特別講演 2

「慢性膵炎の診断と治療 ～症状から考える慢性膵炎～」

京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学 講師

阪上 順一 先生

急性膵炎が後遺的变化を残さず旧に復する膵の炎症であり、多くは入院加療を要します。一方、慢性膵炎は非可逆進行性の膵の炎症とされており、外来での診断加療が一般的です。慢性膵炎は特定疾患療養管理料（月 2 回）の算定が認められている疾患でもあります。慢性膵炎の病期は代償期・移行期・非代償期に分類され、疼痛対策・栄養療法・内外分泌機能障害に対する治療が必要となります。2020 年現在、慢性膵炎診療ガイドライン改訂作業が進行中です。

本講演では、外来診療にて慢性膵炎をどのように発見するか、またマネージメントの方法について説明します。とくに、①膵酵素補充療法（PERT）、②カモスタットによる治療、③成分栄養剤による治療、④ESWL を含む内視鏡的治療と効果、⑤慢性膵炎の進行阻止に向けた外科治療の役割、⑥慢性膵炎の糖尿病治療、に区分し膵疾患になじみが薄い先生やメディカルスタッフの方にも、分かりやすく概説いたします。